に関連する種々の企業 50 社あまりが各ブースに陣取つて展示を行つていた．その規模がとても大きく，いかにもアメリカ的と感心した．この会議に出席した人達は，鉄鋼製造に関する最先端の技術について，学術研究に関することは各セッションにおける講演を聞くことによつて得られ，設備，機器に関することは各ブースにおける係員の説明（商談？）から得られるわけで，このようなユニークな企画も興味深く思われた．（国定）

最後に日本鉄鋼協会により，今回の会議出席に際し日向方斉学術振興交付金を交付されたことを付記する．

編集後記

編集委員になつて一年が経過し，今回編集後記の順番がまわつてきました．何を書けばよいのか思い浮かばないので，ここ一年間ほどの編集後記をまとめて読み返してみますと，本誌の編集後記は少し変わつていると感じました，特集号の場合を除いて，掲載内容に関連した記述が少ないことです．かくいう私も，本号の目次を見て，編集委員会での審査報告を思い出しながら，内容に触れてみたいと思つたのですが，非常に難しいことを思い知らされました．

それは，投稿論文を主とする会報の常として，校閲，査読が終わつて編集委員会で掲載が決定された順序で各号の構成が決まり，各号にあまり特徴がないからです．編集後記のためだけから言うのではありませんが．各号にもう少し特徴がほしいと感じました．

この点をカバーする意味からも，年2回程度特集号が編集されています．さらに．本年は新たに小特集（1，2号）も編集されました．この小特集は，特集号への投稿が予想以上に多く，特集号に加えて小特集を編集することができたのですが，種々の主題で小特集を組めるようになれば，各号はかなり特徴のあるものになりましよう．もう一つは，依頼原稿である展望，解説，技術資料だけでの特集化を図ることです．そのためには，一定時期に特定分野に集中した原稿を集める仕組みを確立することが前提で，実現はそう容易ではありません．もちろん，全号を特集化する必要はありませんが，もう少し特徴のある号数を増すことが，本誌をいつそう魅力のあるものにするのに必要だと感じています．

編集後記を書くことの難しさに始まり，これこそ変な後書きになりましたが，こういう反省もあることを理解していただき，読者の中で本誌の編集についての要望と提案をお持ちの方は，ぜひご意見をお寄せください．（Y.K.）